



## 野外活動を終えて

「ONE TEAM～限界突破を目指して～」



「時を守り、場を清め、礼を正す」これは、半田市の先人である森信三先生の教えて、社会に出たときに大切にしたい心構えです。

「時を守り」とは、時間を守るということです。定刻までには準備を整え、きたるべき時に備えて心を静めて開始を待つということです。時を守る先には、相手があります。自らが時を守ることで、相手を尊重することになります。

「場を清め」とは、整理整頓をし、掃除を施すということです。掃除をすることは、5K（気づく人になれる・心を磨く・謙虚になれる・感動する心・感謝の心が芽生える）として語られることがあります。

「礼を正す」とは、あいさつをする、返事をするということです。あいさつは、心を開いて相手に迫るという意味があります。相手が気持ちよく受け取ってくれるあいさつは、その相手に対する礼節につながります。

野外活動の出発にあたり、生徒に「時を守り、場を清め、礼を正すことは、相手を思いやる、相手を敬うということであり、感謝の気持ちをもって野外活動に取り組めたら、きっと大成功、美しい思い出となる。No密だけど、思い出は濃密にしよう」と伝えました。そして、生徒は、**学年目標「ONE TEAM」「限界突破」**を目指し、本当によくがんばりました。

「ONE TEAM」では、みんなは一人のために、一人はみんなのために、さまざまな場面で生徒同士が声をかけ合い、支え合っている姿がありました。また、自分の役割に対して責任をもってやり遂げようとする姿がありました。特に感心したことは、全体が集まる場面では、すばやく、静かに集まり、全員が話し手を見て真剣に聞いている姿です。形がそろくと、気持ちがそろいます。これぞ一体感、ONE TEAMを感じた瞬間でもありました。

「限界突破」では、自分で限界をつくらず、常に自分の納得のいくものにしようと全力で取り組んでいる姿がありました。人前に出て話すことが苦手な生徒もいると感じましたが、みんなの前で一礼をし、自分の言葉で思いを語ってくれました。

人は、自然の中では思い通りにはならない、弱い生き物です。思い通りにならないからこそ、厳しい自然を受け入れること、はかない生命をせいっぱい生きることが尊いと思います。コロナ禍で、人と人のつながりが希薄になってしまいがちですが、私たちはこの野外活動を通して、改めて人と人がつながることで、心に火が灯り、困難にも負けない強い気持ちが養われるのだと感じました。

退所式の時、美浜少年自然の家の所長さんから、半田中学校の掃除がすばらしいとお褒めの言葉をいただきました。自分たちで使った部屋や共用スペースの階段、廊下、わたりの掃除を「来たときよりもきれいに」という気持ちで、いつも通り「しあわせ清掃」をしたと思います。その結果、S1グランプリ（掃除が一番きれいな学校）に値するとのことでした。いつもの通りの行いが、学校の外に出てこのようなお褒めの言葉をいただけたことに、半田中学校の教育の成果を感じました。

しあわせ清掃とは、

「し」ずかに、「あ」そばない、「わ」かれてやる、「せ」いりせいとんを意味します。しあわせ清掃は、周りの人を幸せにします。



美浜自然の家から見える景色はオーシャンビューでした。時間の流れによって、海の景色はさまざまに変わります。時に大きな貨物船が姿を表したり、優雅な姿で飛行機が飛んでいたりして、ずっと見ても飽きない景色でした。特に、1日の終わりを告げる夕日は本当に美しかったです。

「アルプスの少女ハイジ」というお話で、こんな場面があります。

ハイジは、アルプスの大自然の中で、おじいさんと2人で暮らしていました。あるとき、ハイジはアルプスの山に沈む夕日があまりに美しいので、「おじいさん、なぜ夕日ってあんなにきれいなのか？」と聞きます。

おじいさんは、「人間でも自然でも、お別れするときの言葉が、一番美しいんだよ。太陽が山や牧場におやすみを言うときにはとっておきの一番美しい光を投げて、お別れのあいさつをするんだよ」と答えます。

お別れするときが、一番美しい（有終の美）・・・次は卒業式、そして修了式です。

2021年のプロ野球シーズンは、ヤクルトスワローズが日本一になりました。

ピンチのとき、高津監督は「チーム一丸となれば、絶対大丈夫」と言って、選手を励まし続け、2年連続最下位から一気に日本一を手にしたことから、「絶対大丈夫」が魔法の言葉と言われるようになりました。

大丈夫という3文字には、「人」という字が入っています。皆さんに何かあったときは、周りの人は必ず皆さんを「大丈夫」と言って支えてくれます。

皆さんの味方になってくれる人は必ず3人います。友達、お家の人、先生・・・そう捉えると、がんばれる気がしませんか。

